



創刊 1946年(昭和21)年5月1日
発行所 日本教育新聞社
〒108-8638
東京都港区白金台 3-2-10
電話 03(3280)7008(大代表)
郵便振替 00150-8-196500
○日本教育新聞社 2019
〒03(3280)7025
Eメール kodoku@kyai
ku-press.co.jp
http://www.kyoku
ku-press.co.jp

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただきますと、日本教育新聞電子版のページにアクセスできます。

index
大学入学共通テストに挑む
大学入試センター試験に代わり、現在の高校1年生が受験することになる「大学入学共通テスト」。高校現場では、既に対応が始まっています。その模様を取材しました。

「深い学び」へ 独自の指導スキル設定

全校で「一往復半の言語活動」

「考え方を考える」授業へ

意見発信 ▼ 聞き手が質問 ▼ 応答

新学習指導要領で授業改善のキーワードの一つになっている「深い学び」の実現に向け、言語活動の充実を重点を置く東京都港区立高陵中学校 金川恒美校長、生徒340人。授業での活用を目的とした「高陵ティーチングスキル」を設定し、学びの充実に向けて各教科等で実践を積み重ねている。区の学力調査でもと高い学力だが、入学後、5教科の平均正答率が35%に向上しているという。

東京・港区立高陵中学校

「主体的に聴く」など 道徳で「コミュニケーション」育む

「うん、合ってるよ。ちた数学科の単元「平面図形」やん」と線を引いて。 3、4人の少人数グループ。生徒一人一人に配られたフデ力を含ませて課題解決の1枚の地図。与えられた取り組む1年生の生徒たち。タミシヨンは宝の場所を。これまで学んできた。三つある。例えば、「地二等分線④の接線①の作図」と「海賊旗」を結合。図に關する既習の知識・技能の中心を〇とし、〇を能を生かすことを目的とし、中心として「地点〇」から

高陵ティーチングスキル(各教科での指導内容の共有化)

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 内容 (Content). Rows include: 目標の明示, 明確で端的な作業指示, 話し合い指導の基本, 一往復半の言語活動, フィードバックの活用.

「選」までの長さや生徒とする円を「かけ」など。それぞれの手掛かりごとにプリント(練習用のダミー)を用意し、生徒たちは自分が担当する手掛かりの作図方法を考えた。その後、どのように作図したかをグループ内で説明。それを聞いた他のメンバーの意見などを踏まえ、やりとりをしながらグループとしての作図方法を決めていく。最後は教師が四つの手掛かりを提示し、グループ全員が協力して問題解決に挑んだ。



校内研修を通じ効果検証

「深い学び」の実現に向け、授業改善の充実を支える。あるといわれている。都会 研修(1人当たり8分間)の校内研修の役割は大きい。小規模校では各教科担当が一人しかいないことが、年から1人の代表者を選出。指導に關する内容を、3人の教師が他の教師 導場面に近い環境で生徒た

「答えを考える」から 「考え方を考える」授業へ 「深い学び」の実現に向け、言語活動を重視している。同校。領域・道徳では、今後、課題の一つは、新しい「深」の評価の観点の観点を図ったという。

「高陵コミュニケーション」を取り入れた。この1年生数学科の「平面図形」の授業では、「評価規準の観点の明示」の他には、「話し合い指導」の共有化や「主体的に聴く」の育成などがある。このように活用されているが、生徒の学びのつながりの有無など、チェックシートを使って分析。授業者へのフィードバックや自身の授業に取り入れたいことなどについて意見を交わした。ヒアリングによる振り返りも行い、自分自身が気付いた課題を挙げたという。

「高陵コミュニケーション」を取り入れた。この1年生数学科の「平面図形」の授業では、「評価規準の観点の明示」の他には、「話し合い指導」の共有化や「主体的に聴く」の育成などがある。このように活用されているが、生徒の学びのつながりの有無など、チェックシートを使って分析。授業者へのフィードバックや自身の授業に取り入れたいことなどについて意見を交わした。ヒアリングによる振り返りも行い、自分自身が気付いた課題を挙げたという。